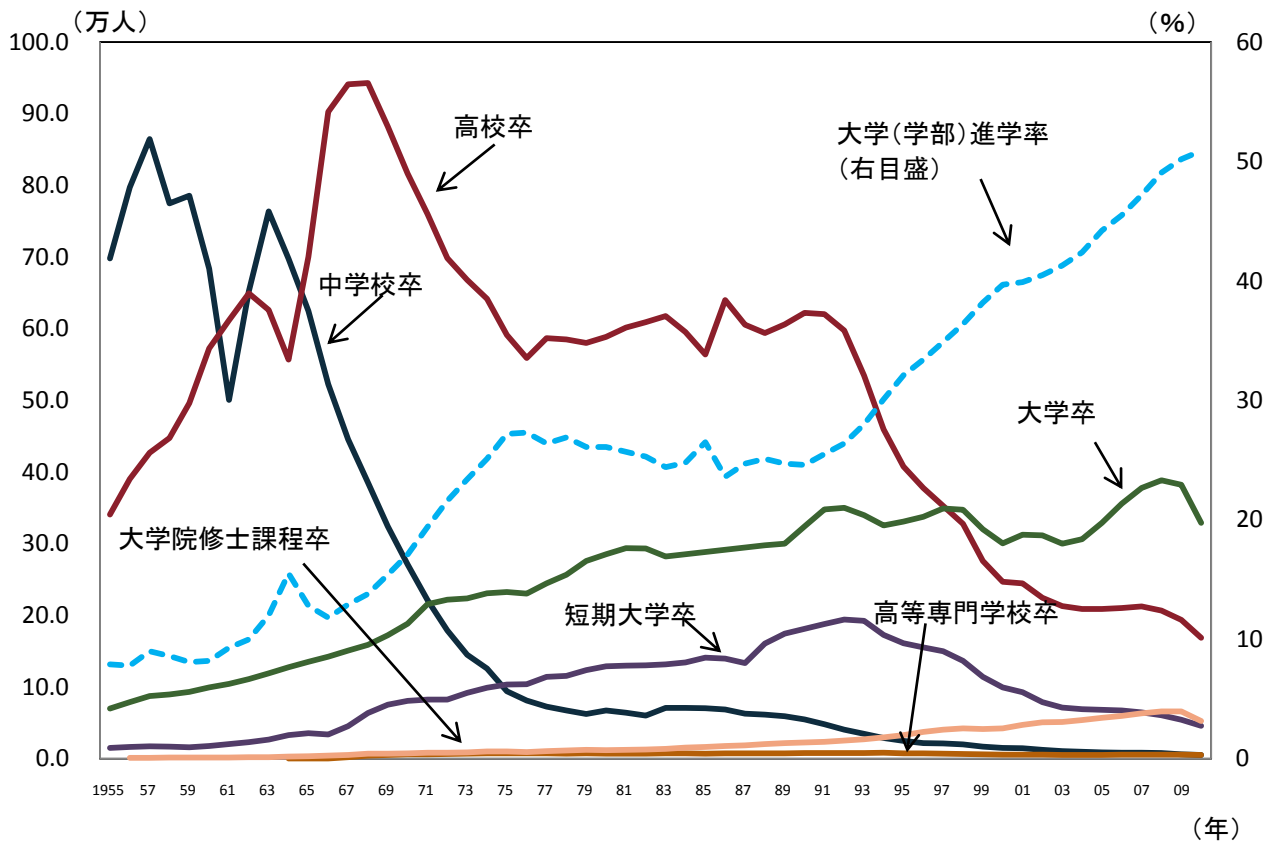


学歴別就職者数と大学進学率の推移



資料出所 文部科学省「学校基本調査」

- (注) 1) 就職者は、各年の学歴別卒業生における就職者数であり、進学しかつ就職した者を含む。
 2) 大学(学部)進学率は、大学学部入学者数(過年度高卒者等を含む)を3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者で除した割合。

(大学進学率の上昇と就職促進の課題)

- バブル崩壊以降、厳しい経営環境のもとで、正規雇用の絞り込みが行われ、1990年代の半ばから2000年代半ばにかけ、特に若年層の雇用情勢は悪化し、非正規雇用比率は大きく上昇した。若年層の就職環境の厳しさは続いており、新規学卒者の採用拡大と就職促進は引き続き課題であるが、大学進学率が上昇し、大卒就職者が多数を占める中で社会のニーズとの結びつけにも課題がある。
- 大学進学率は、高度経済成長を通じて大きく上昇したが、1970年代後半から80年代にかけては、横ばいないし減少で推移した。第二次ベビーブーム世代が18歳に達する1980年代終わりから1990年代前半以降、大学進学率は再び上昇傾向に入り、1990年の24.6%から2000年には39.7%となり、2010年には50.9%と過去最高の水準となった。